

# 『農』の循環や連携 取組み着々

日本の食料自給率は先進国の中で最も低く、特に飼料の自給率は25%と低い状況にあります。一方、稲作では、米消費の減少や貿易事情などから、生産調整（減反）が実施され、転作での飼料用稲が注目されています。こうした状況を踏まえて、高山市では、畜産の飼料や敷料として稲ワラを有効活用する窓口の設置や米の生産調整達成に向けた「飼料用稲」の生産奨励への取組みを始めました。



外観は食用米と変わらない飼料用米

## 稲ワラ有効活用に 推進窓口を設置

市内での稲ワラの利用は、田に打ち込む「すきこみ」がほとんどで、はさ掛けの稲ワラの約4割・70分がすきこみされている状況となっています。（市調べ）



稲発酵粗飼料は、ロール状にして収穫します

高山市では、こうしたはさ掛けの稲ワラを飼料や敷料として有効活用するため、水稲を作付している農家と畜産農家との橋渡しする窓口を設置しました。はさ掛けされた稲ワラを畜産農家に提供（有償可）できる農家のみなさんへご連絡ください。

## 飼料用米の 生産・利用スタート

一方、稲ワラの有効活用窓口と合わせて今年度から作付け推奨に取り組む飼料用稲は、収穫した米を家畜に与える「飼料用米」と、茎葉を含めた株全体を、収穫後発酵させる「稲発酵粗飼料」の2つに区分されます。

飼料用稲は、排水の悪い水田でも作付することがで

き、栽培体系も通常の稲作と変わりません。また、畜産農家では、輸入トウモロコシの代替として配合飼料の原料として使えるほか、稲発酵粗飼料は、牛も好み、長期保存できることから年間を通じて安定した供給ができます。

市内では現在、飼料用稲が3営農組合で約7分、稲発酵粗飼料は2営農組合で約4分作付けされ、それぞれ養豚農家、酪農農家に供給されています。

自給率向上の切り札として、飼料用稲は、今後ますます普及利用が期待されています。

問合せ先

農務課

35-3141

## ようこそ 自然豊かな高山へ

きめ細かな施策に移住者4ヵ月で29人

市では現在、移住促進のためのさまざまな取組みをしていますが、このほど市が提供する移住促進制度を利用した移住者が約4ヵ月で12世帯・29人になりました。



手づくり野菜を手にする本山さん夫妻（朝日町）は東京からのIターン

移住が進んでいる要因は、高山市の豊かな自然環境が移住希望者のニーズに合っていることなどに加え、市が進める移住交流施策が後押ししているものと考えています。

市では今後も、都市住民を対象とした移住フェアへの参加や、移住セミナーの開催などこれまで以上にPR活動を充実させることに加え、農業の専門家などで構成するネットワーク会議を設立して就農移住も進めていきます。

問合せ先

地域振興室

35-3524